

「大人になる」とは どういうことか

小諸市でのインタビュー調査 結果から

2019年12月7日（土）明治学院大学社会学部
「社会学・社会福祉学会研究発表会」発表スライドと原稿
2019年度 社会学科 柘植あづみゼミ（演習1）

調査の目的

- 「大人になるとはということか」について、個人へのインタビューをし、その考えを醸成している地域環境について学ぶ。
 - － 成人年齢の法的な引き下げが検討され、選挙権も18歳になった。私たちは「大人」にどんな意味を込めて使っているのかを調査する。
 - － 「大人」は多義的な単語である。「大人になる」「大人である」も、多様な意味内容を含む。
 - － 「大人」と「子ども」には境界があるのか、対立する概念だと考えられているのかの確認をする。
 - － どんな条件が「大人」の条件だとされているのかを整理し、検討する。
 - － 「大人」であることは、調査した社会でいかに認識されているのかを考察する。

調査方法

1. 調査地域 長野県小諸市
2. 調査日程 2019年8月8日～10日
3. 調査方法

- ・街を知るためのフィールドワーク（街歩き、セミナー）

- ・直接面接方式の半構造的インタビュー＊

事前に小諸市の市民協働推進系の協力で地元の複数の団体に依頼状を送付した。当日、それぞれの団体活動の場所で改めて個人にインタビュー協力をお願いした。インタビューはすべて録音し、文字起こしをしてデータ化した。ここで紹介するデータはすべて匿名である。

3

「大人になるとはということか」
についてのインタビュー調査に御協力ください。
時間はおよそ30分程度です。

調査の目的：「大人になる」という個々人の意識についてインタビュー結果から分析します。インタビュー調査の実習を兼ねています。

結果の公表：11月末にある社会学部の社会学・社会福祉学会の研究発表会で報告します。

※発表原稿とスライドを御希望される方にはお送りすることができます。その際にはメールアドレスか御住所を教えてください。

プライバシー保護：年齢・性別は伺いますが、調査結果はすべて匿名です。公表する際にはさらに個人を特定できないように配慮します。

明治学院大学社会学部3年生 柘植(つげ)ゼミ生

明治学院大学 〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37
03-5421-5111（代表） 03-5421-5359（柘植研究室）

4

調査内容「大人になるとはどういうこと」か質問項目 1

- 自分のことを大人だと思うのはどんなときですか
- 自分のことを大人ではないと思うのはどんなときですか
- 他人のことを大人だと思うのはどんなときですか
- 他人のことを大人ではないと思うのはどんなときですか
- 成人したら大人だと思いますか

成人年齢を20歳から18歳にする動きについてどう思いますか
年齢が若くても大人だという人はどんな人でしょうか
年を重ねていても大人ではないという人はどんな人でしょうか

5

調査内容「大人になるとはどういうこと」か質問項目 2

- 大人であるとかないとかは、働いている（経済的自立）、日常生活の自立、結婚している、子どもがいるなどに関係すると思いますか
- 大人になりたいと思ったのはどんなときですか
- 大人になりたくないと思ったのはどんなときですか
- 大人になりたいと頑張ったのはどんなときですか
- なぜ、大人になりたかったのですか
- 大人とこどもの境界線はどこにあるのでしょうか
二項対立か、同時に存在するか、グラデーションか
- あなたの理想の大人像を教えてください

6

調査結果の整理と考察

- 各自がすべてのインタビューの文字データを読んで、全体像を把握した。
- 各自の担当分をエクセルに整理し、ひとつにまとめたエクセルデータを共有して、個人およびグループで議論し、考察した。
- 22名の年齢・性別に偏りのある質的データであるため、考察した結果から「仮説」を提示した。

7

基本的属性

1. 年齢 10代から80代（70代が9名と最多）
2. 性別 女性17名、男性5名
3. 御職業 年齢が高い方が多く、主婦、無職（元〇〇）などが多いが、学生や会社勤務の方もいらっしゃった
4. お住まい 小諸市内がほとんど
5. 婚姻 既婚が多いが、未婚、死別の方もいらっしゃった
6. 生まれたところ 小諸市、近隣地域、県外、国外と多様だった

8

本日の発表のポイント (調査結果の考察から仮説生成へ)

- 大人と子どもの境界はあるか、何が境界だと思うか
- 大人とはどんな人か
- 「結婚していること」と「大人であること」は関係ある？
- 「自分のことを大人だと思うのはどんな時ですか」の回答の比較
- 結婚と子育ての経験と大人になること
- 働く経験は「大人になること」に繋がる？
- 大人ではないと思うのはどんなときか
- 大人になりたいか
- インタビューでの語り口

9

表1-1 インタビューにご協力いただいた方

No.	仮名	インタビュアー	インタビュー場所	年代	性別	生まれた地域	居住地
1	A	高島、玉川、藤田	ボランティアサポートセンター	70	女性	県外	小諸市
2	B	玉川	小諸市文化センター	70	男性	県外	小諸市
3	C	江座、江崎、菊地	ボランティアサポートセンター	70	男性	県外	小諸市
4	D	稲葉、狩野、小池	ボランティアサポートセンター	70	女性	県外	小諸市
5	E	稲葉、狩野、小池	ボランティアサポートセンター	40	女性	海外	小諸市
6	F	堀江	小諸市文化センター	80	女性	尋ねなかった	小諸市
7	G	高島、藤田	小諸市文化センター	70	女性	市外	小諸市
8	H	串田	小諸市文化センター	80	女性	小諸市	小諸市
9,10	I, J	江座	小諸市文化センター	80, 不明	女性2名	小諸市	小諸市
11	K	稲葉	小諸市文化センター	70	女性	尋ねなかった	小諸市

10

表1-2 インタビューにご協力いただいた方

No.	仮名	インタビューー	インタビュー場所	年代	性別	生まれた地域	居住地
12	L	菊地、伊集院、牧野	コミュニティセンター	10	男性	小諸市	小諸市
13	M	江座、江崎、菊池	小諸市文化センター	70	男性	県外	小諸市
14	N	江座、江崎、菊池	ボランティアサポートセンター	60	女性	市外	小諸市
15	O	堀江・串田・島田	ボランティアサポートセンター	不明	女性	小諸市	小諸市
16	P	高島、藤田、玉川	コミュニティセンター	20	女性	小諸市	県外
17	Q	牧野	ボランティアサポートセンター	70	女性	市外	小諸市
18	R	伊集院	ボランティアサポートセンター	50	女性	海外	小諸市
19	S	牧野	小諸市文化センター	80	女性	小諸市	小諸市
20	T	伊集院	小諸市文化センター	80	女性	尋ねなかった	小諸市
21	U	藤田、高島、玉川	ボランティアサポートセンター	70	女性	県外	小諸市
22	V	狩野	小諸市文化センター	80	男性	小諸市	小諸市

11

インタビュー 結果と考察

大人と子どもの境界線はあるか？

私は「大人と子供の境界線はあるか？」についてインタビューの全員の回答を検討しました。

- 大人と子供の境界線はあるか？という質問に対して、22名中16名の方に回答を頂きました。
- 境界線があると答えた方は11名、境界線がないと考えた方が5名でした。
- 境界線があると答えた理由としては、ないと答えた方の理由としては、「自然となっていくものだから」、「大人でも子供の心持っている人がいるから」、「難しくて分からない、しかしないと思う」というような内容になっています。

(担当 堀江)

13

大人と子どもの境界線はあるか？

境界線がある	11人
境界線がない	5人

境界線がある

- 内面的なもの 5人
- 外面的なもの 4人
- 年齢 1人(3人)
- その他 1人

境界線がない

- 自然となっていく 2人
- 大人でも子供の心を持つ人がいる 1人
- 難しくて分からない 2人

14

大人と子どもの境界線とされたことから

- | | |
|-----------------|---|
| • <u>内面的なもの</u> | 思いやりの心/責任感/周りの気遣い |
| • <u>外面的なもの</u> | 経済的自立（就職する/税金を払う）
中学→高校→大学などの環境の変化
結婚する |
| • <u>年齢</u> | 18歳で世間に出ていく/身分証/選挙権
/飲酒が認められる |
| • <u>経験</u> | 働く/結婚する/子育て など |

15

大人と子どもの境界線

境界線があると答えた人が少し多かったので、回答から4つに分けてみると、内面的なものが5名、外見的なものが4名、年齢が1名だったのですが、この質問以外の質問の中でも、境界線に関する回答をして頂いていた方が2名おり、合計で3名、その他が1名という結果になっています。この内面的なものというのは、回答の例を挙げると、思いやりの心、責任感、周りへの気遣いができるといった部分で、外見的なものは経済的自立、これは就職だったり、税金を払うようになったりすることです。また、中学高校と周りの環境の変化によるもの、結婚することなども挙げられました。年齢については、18歳と考えている方がいて、その方がその年齢になること境界線と考えていて、居酒屋等で身分証の確認をされること、選挙に行くことができるなどもありました。

●今回の調査結果をみると、制度的なものをみると基本的に年齢によって区別されることが多いが、実際に大人と子供の境界線を考えた時は、内面的なもの、そして経済的自立などの外面的なものを基準として大人と見ているということが、多いのではないかと考えられます。（担当 堀江）

16

大人とはどんな人か

私たちは大人についてインタビューされた時に、大人だと思う人はどんな人かへの回答を検討しました。

- 【自分のことを大人だと思うのはどんな時か】という質問に対して、人のために動けること、しょうがないなと思いながら自分の中に収められることという回答が出ました。
- つぎに【他人のことを大人だと思う時はどんな時か】という質問に対しては、周りを色々見えていたりするとき、人を許せる人という回答が出ました。
- また【年齢が若くても大人だと思う人は】という質問には、心配りができる人、周りが見られる人という回答が、得られました。
(担当 小池 稲葉)

17

自分を大人だと思うときはどんなときか？

60代女性 大人って、自分の言ったことに責任持てること。それから、人のために働けること。手助けできること。家族を越えて。人のために動けること。自己中はダメ。大人じゃない。

70代女性 分別。分別がついて社会的な役割を、自分の年齢に応じた役割をきちんと果たせる人が大人。社会の役に立てることを少しでもやって行く

70代女性 人の痛みがわかるようになった

70代女性 しょうがないなと思いながら自分の中に収められれば。

70代女性 大人になるってことは本当にあれね、ちょっと、寛容になる事。やっぱり他人に対してね、優しくなるとかね

70代女性 我慢することができるようになった時かな。自分の意見だけを主張しないように。自信もついてきたかな、経験積んで。

18

他人を大人だと思うのはどんなときか？

- 19歳男性 言っちゃいけないことを堪えられる人。配慮とか
- 20歳女性 周りをいろいろ見えてたりする時ですかね。気遣えたり、自分が見えないところを見えてるなって思う時ですかね。
- 60代女性 優しい感じ。優しい人は大人だなって思う。包容力とか。意見聞いてくれるとか。すぐ怒らないとか。
- 79歳女性 人を許すとき。許せる人。人を許せる人は大きく見える
- 71歳女性 困っている人にとっさに動ける
- 72歳女性 他人を頭ごなしに否定しない人
- 79歳女性 知ってることもね、知らないフリして黙って聞いている。
- 78歳男性 嘘を上手に使える人のことを大人だと思う、それをうまく使える人
- 80歳女性 人の悪口を言わない人かな。
- 84歳女性 自分の事は二の次で仕事（警察官）に打ち込む息子は大人だと思う。自分より他人を考えること

19

年齢が若くても大人だと思う人はどんな人か？

- 60代女性 気配りができる人が年齢が若くても大人だと思う。人の苦勞も知っているだとか、いろんな人と関わっているだとか 調子よく合わせていくのが大人だとは思わない。
- 70代前半女性 家族のこととか周りのことに気を使える人
- 70代後半女性 周りの人に気遣いできる人。
- 80代前半女性 周りをみれる人、挨拶をきちんとする人はしっかりしてると思う



20

大人とはどんな人か

- ・さらに、【理想の大人像は】という質問には、他人のために色々優先してできる人、相手の気持ちを汲み取れる人などという回答が出ました。これらの回答から、人助け・寛容・配慮・周りのことを気遣える・社会との調和といったキーワードが共通してあげられ、ここから大人とは「他人のことを考えられる人」であるという考えがあると分析しました。（担当 小池、稲葉）

21

あなたの理想の大人像は？

- 10代男性 大きい人っていうか、心が大きい人かな。みんなに優しいみたいな。
- 20代女性 子供のためにとか自分じゃなくて人のためにいろいろ最優先してできるとか、ちゃんと周りを見れてたり、責任があったりですかね。
- 50代女性 子どもの大学まで学費をだしてあげて育てる、自分よりも子どもを大事にすること
- 70代女性 家庭を持って、相手を思いあって暮らせる人は理想
- 70代女性 相手の気持ちをくみとることができる人になった時が大人、理想の自分の人生を満足していきている人、でそれが人の役に立つ、まあ立たなくてもいいけど一生懸命一つのことを追い求めてやっていく人かな
- 70代男性 他人に迷惑をかけない
- 70代男性 社会の人たちときちんと溶け込める人
- 80代女性 責任の持てる人間
- 80代女性 周りのことを考えられる・自分以外に尽くせる人

22

大人とはどんな人か 考察

ではなぜ、小諸市の人々は大人というものに、このように回答したのでしょうか。そこで小諸市民のコミュニティづくりの特徴について調べてみました。

小諸市は2006年3月、「小諸市安全で安心なまちづくり条例」を策定しており、市民によって安全で安心に生活できる住みよい地域社会の実現を目指してきた自治体です。

表は、小諸市民を地区ごとに分けて、近隣の人との挨拶の頻度、災害時に支援しあえる人の有無について質問した結果を引用したものです。地域差は多少あるものの、近隣の人との挨拶では、約8割が「誰とでも挨拶を交わす」、または「顔を覚えている人と交わす」と回答しており、隣近所に顔見知りが多くいることを示しています。

次に、災害時に支援しあえる人の有無については、「いる」と回答する割合がどの地域でも半数を超えており、多いところでは75.2%にも上っています。

こうしたアンケート調査の結果から、小諸市住民が安全・安心の推進のために「共助」としての支え合いの仕組みを重視している状況が判明したと言えます。こうした助け合い、支え合いをする、そうした仕組みを作っていくためには、まず自己中心的な考えや行動をしてはいけません。そして相手のことを理解しようとしなければいけません。そして相手を信頼し、相手のために行動しようという気持ちを持って初めて、助け合い、支え合うことができます。これを常日頃意識している、小諸市民の皆さんだからこそ、他人のことを考える言動ができる人が大人であるという回答をした人が多かったのではないかと私たちは仮説を立てました。

(担当 小池、稲葉)

23

小諸市民のコミュニティづくりの特徴

小諸市2006年3月 「小諸市安全で安心なまちづくり条例」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/aija/78/685/78_593/pdf/-char/ja

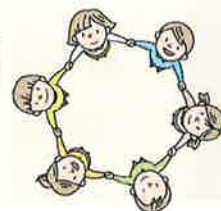


表8 コミュニティや近隣との関係

	隣近所の人との挨拶				鍵を開けたままの外出				災害時支援しあえる近隣の人			合計	
	誰とでも 交わす	顔を覚えてい る人と	挨拶され れば	ほとんど ない	よくある	たまにある	あまりない	全くない	いる	いない	わからない	構成比	実数
1.中央	34.27	50.64	10.49	2.94	7.16	20.46	20.72	50.64	51.02	11.64	36.19	100.00	782
2.北大井	43.02	44.09	8.94	2.51	10.61	18.72	22.07	47.77	54.75	8.66	35.75	100.00	358
3.三軒・南大井	38.16	46.21	11.03	2.99	11.26	20.00	18.16	50.11	52.41	12.41	34.02	100.00	435
4.大里・西小諸	43.80	44.63	8.68	1.65	13.64	22.73	16.94	46.28	62.81	8.26	27.27	100.00	242
5.川辺	58.10	33.33	6.67	0.95	24.76	23.81	16.19	34.79	75.24	6.67	15.24	100.00	105
6.谷地原	43.31	48.03	7.09	1.57	3.94	13.39	20.47	62.20	55.91	7.87	36.22	100.00	127
NA	34.88	44.19	11.63	4.05	19.77	18.60	18.60	40.70	56.98	12.79	24.42	100.00	86
合計	39.34	46.29	9.79	2.62	10.49	20.00	19.67	49.04	54.99	10.49	33.16	100.00	2135

(注) 各質問に対する無回答、不明分は省略。各地区の合計世帯数に対する割合。



仮説：地域での人間関係から、他人のことを考える言動ができる人が大人であると回答した人が多かったのではないかと推察

24

「結婚していること」と「大人であること」は関係ある？

- 私は、「結婚していること」と「大人であること」は関係あるのかに着目しました。まず、「大人であるとかないとかは、働いている（経済的自立）、日常生活の自立、結婚している、子どもがいるなどに関係すると思いますか」という質問に対して、結婚は当たり前のことであつたため、結婚したからといって大人ではないという回答がいくつか出ました。このような回答をしたのは全員70代から80代の高齢の方で、その中で1番若い方が戦後生まれの方であつたため、戦後の婚姻率や出生率について調べました。
(担当 藤田)

25

「結婚していること」と「大人であること」の関係

80代女性「改めて考えたことなかったけど、なんだろうね、なんか普通だと思っていたかもしれない。結婚して、所帯持って普通の生活。っていうのは普通かな。...学校終わってから、その年になって。そうそう。なんていうんだろう、そんなにその頃って、きょうだいが大勢であつたもんで、家を助けるっていうのが先だったかな。きょうだい7人もいたから。で、一番上だったから。だからもうずっとね、結婚する寸前まで家を助けてた。他のきょうだいもその頃は働き始めていたけど、だからもう当たり前みたいになっちゃってて、改めて...」

70代女性「結婚したからってね、でも結婚は昔はねしきたりだったの。今と違ってしきたりみたいで、周りの人もみんな女の人23くらいから遅くとも28くらいまでには結婚したほうがいいってね、みんな思っていたわけよ。それに右にならえ、それは全然不思議にも思わなかった。」

70代男性「まあ結婚すんのが当たり前だなと思ってね、いたからね。」

26

「結婚していること」と「大人であること」は関係ある？

では、結婚と大人であることは関係していると答えた人と、関係ないと答えた人は、具体的に何が大人であることに関係していると考えているのでしょうか。

厚生労働省の調査によると、昭和22年の婚姻率は約95万組で、この時期は第1次婚姻ブームと言われます。また、その年の平均初婚年齢は男性が26.1歳、女性が22.9歳で、平成26年の平均初婚年齢と比べて、男性は5歳、女性は6.5歳低いという結果でした。そして、出生率も約270万人と非常に多く、第1次ベビーブームと言われます。これらのことから、終戦直後は、婚姻率・出生率ともに現代と比べて圧倒的に多く、結婚をするタイミングも早かったということがわかります。

つまり、回答してくださった70代から80代の方々の時代は、現代と比べて、結婚するのが当たり前の時代であったため、結婚と大人であることは関係ないと回答したと言えます。

27

昭和22年

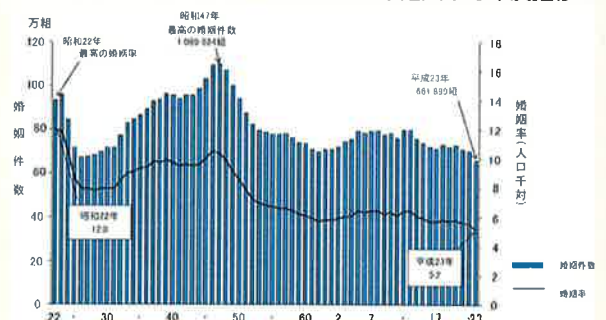
婚姻率：約95万組、第1次婚姻ブーム
(平成23年 約66万組)

平均初婚年齢：男性26.1歳、女性22.9歳
(平成26年 男性31.1歳、女性29.4歳)

出生率：約270万人、第1次ベビーブーム
(平成28年 約97万人)

終戦直後は現在と比べて、婚姻率と出生率が高く、平均初婚年齢は低かった。

婚姻件数及び婚姻率の年次推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」

28

「結婚していること」と「大人であること」の関係

私は「結婚していること」と「大人であること」が関係あるという回答と、関係がないという回答を、「結婚」をキーワードに探し出し比較しました。

「結婚」と「大人であること」は関係があると答えている人は、結婚を通した「経験」「責任感」が関係があるという回答をしていました。結婚して、子育て、世帯を持つことなどの経験を持つことで、独身時代の自分にはない成長、責任感が生まれるなどの変化を重視しているようです。

逆に、関係がないと答えた人は、「自分の時代は(結婚が)当たり前だった」「結婚をしていなくても立派な人はいる」という回答が多くみられました。「結婚しなくても」という話し方をしている人は、「常識的に結婚をしている人は立派だ」という前提があることを意識していると考えられます。それを踏まえた上で、これを述べた人は、「結婚をしていなくても立派である」ということを強調し、結婚しているか否かは関係なく、結婚を通した「経験」や「苦労」が「大人になること」と関係していると述べていました。
(担当 玉川)

29

① 「結婚と大人であることは関係している」という回答

- 独身の時はまあまあ子ども気分でもいられるけど、結婚するとやっぱり、特に子どもができたりなんかするともうあの、子どもなんて言っていないし、もちろん**責任**も出るし、大人にならなきゃね、と思うよね。(70代女性)
- こういう子育てしてらっしゃる方は、この大変さっていうのがね、もうじかに**経験**されているので・・・学校で例えば子守の仕方とか子育ての仕方とかをいくら学んでもこういう実際育ててる方には敵わないですよ。(70代女性)
- あのね自分の子どもを見ていてね、例えば一人っ子だったから、別になんかねするわけではないけど、なんとなく子どもだなんて思った。結婚して所帯持つでしょ？そうするとだんだん**責任感**とか出てくる。そういう時にちょっとね。(80代女性)

30

②「結婚と大人であることは関係ない」という回答

- 全く(関係)ないと思う。・・・大人だったら子供がいるとか、**結婚してるとか、全部働いているとか、お金を自分で得ている**ってのが大人だと言われたら、そうじゃない人いっぱいいるから、苦しいよね。どこの国行っただって、働かないプータローはいっぱいいるよ。**でも大人だなんて人はいっぱいいる。**(60代女性)
- まあ常識では結婚して子どもがいるっていうのは、んー一般的かもしれないですけど、でも結婚してなくても立派な人もいるし。(80代女性)

31

「結婚していること」と「大人であること」の関係の考察

①「結婚と大人であることは関係している」という回答の共通点 → 責任がある、経験豊富

②「結婚と大人であることは関係ない」という回答の共通点 → 結婚していなくても立派な人はいる

☑「結婚している」「結婚していない」に関わらず、得られる経験や苦勞が大事

32

「自分のことを大人だと思うのはどんな時ですか」

- ・「生まれて5, 60年経ったかって感じ。もうそんな子供じゃないもんなあ。」（80代 男性）

⇒他の質問で「年齢を重ねたらそれだけ大人になる感覚」

「苦勞する仕事をする人は、ずんずん大人びた考え方していく」

- ・「言ったことに責任持てる時。大人って、自分の言ったことに責任持てることです。」（60代 女性）

⇒他の質問で「（仕事をしなくても）大人な人はいる」

「（経験不足だと）ただ体が大人になるけど心が育っていかない」

両者に20歳ほどの年齢差はあるが、男性は「会社経営」女性は「教員」としての経験あり⇒社会的立場と経験が性別よりも考え方に影響していると推察

33

「自分のことを大人だと思うのはどんな時ですか」

ここでは「自分のことを大人だと思うのはどんな時か」という質問に対しての回答をいくつか取り上げます。

今回のインタビュー調査では、主に60代～80代の方々がインタビューであったため、その年代の人々が「大人になること」に対して、重要だと考えていることについて考察します。

- ・ 83歳の男性は「生まれて5, 60年経ったかって感じ。もうそんな子供じゃないもんなあ。」という発言をしており、他の質問では「年齢を重ねたらそれだけ大人になる感覚」「苦勞する仕事をする人は、ずんずん大人びた考え方していく」といった回答をしています。
- ・ 60代の女性は「言ったことに責任が持てる時。大人って、自分の言ったことに責任を持てることです。」という発言をしており、他の質問では「（仕事をしなくても）大人な人はいる」「（経験不足だと）ただ体が大人になるけど心が育っていかない」といった回答をしています。

ここで、前者は、「会社経営」 後者は「教員」として働いていた経験があると話しており、ここから、職業上の社会的責任が両者には課せられていたと考えられます。それらを通して、強調したいのは、仕事で経験する「苦勞」こそが「大人」に必要な要素であり、仕事などで得られる「成果」「稼ぎ」ではないと考えられる点です。
(担当 菊地)

34

「自分のことを大人だと思うのはどんな時ですか」

○女性(70代) **「寛容になること。」「他人に対してね、優しくなるとかね。」**

・仕事を始めた当初...「自分のことで一生懸命、思いやりなんかなかった」

・20歳の頃、親のお見舞いに頻繁に行く友達を見て...

→「また行くの?」と自分勝手な考え=子ども

→親が具合が悪くなったりすると、優しい気持ちが出てくると語る

↳ 女性役割(子育て・介護など)から?

他人のことを
思いやる

○男性(70代) **「就職して自分で食ってかなきゃなんないと」「自立するっていうこと。」**

他の質問には、自分のことを大人ではないと思う時...「親に頼るとき」

理想の大人...「他人に迷惑をかけないこと」と回答

・5人兄弟姉妹のうち、兄や姉が家(地元)を離れ就職していく

・同僚も地元を離れ就職していくのを見て大人だと思う

↳ 自立の強調→男性的か?

就職して
自立

「自分のことを大人だと思うのはどんな時ですか」

次に、同様の質問に対して、男女一人ずつの回答を取り上げます。

70代の女性は、「寛容になること、他人に対して優しくなること」と回答しました。この女性は自分が若かった頃の経験をもとにして大人に必要なものについて話しています。どのような経験かという、自分が仕事に一生懸命で、頻繁に親のお見舞いに行く友達のことを思いやる気持ちが持てなかったことです。当時を振り返り、誰かの親の具合が悪くなると、若いころには無い優しい気持ちが出てくるとも言っていました。つまりこの女性は、他人のことを思いやることが出来る人が大人であると考えていることがわかります。また、インタビューから病気の人の世話、子育て、介護などの家庭内で女性役割となっているものは、優しさや思いやりと関連して考えられていることが分かります。よって、この性別による役割が女性の「大人とは」の考えに影響していると考えられます。

70代の男性は、「就職して自分で食べていけること、自立すること」と回答しています。このように考える要因として、地元を出て就職していった身近な人について話しています。このことを「自立」と捉えています。この男性は他の質問にも「親に頼らないこと」や「他人に迷惑をかけないこと」を挙げており、「自立」を大人の最も重要な部分として考えていることが分かります。家庭より、就職して経済的にも社会的に自立することが求められる男性役割がこの「大人とは」の考えに影響していると考えられます。(担当 牧野)

「自分のことを大人だと思うのはどんな時ですか」

○女性 70代後半

- ・「自分の年齢によって社会的な役割を果たせること」
- ・golferの後押し活動・家族の多い知り合いへの毎年のお米のプレゼントといったボランティア、この女性の娘さんがアメリカで結婚されたためアメリカに行き文化の違いを知り勉強になったという経験

人の助けをすること

○女性 70代後半

- ・「しょうがないなと自分の中でこらえられること」
- ・（戦時中というのもあり）兄弟姉妹が多く都市の離れている兄姉を見て大人だなあと考えた経験

食事や学校など生活の中で制限があり我慢が必要だった状況で兄姉が自分たちを気遣い苦労していた姿を見ていたため？

「自分のことを大人だと思うのはどんな時ですか」

- ・ 同じ質問について、79歳の女性は「自分の年齢によって社会的な役割を果たせること」と答えました。この女性はゴルフの大会運営のボランティアの参加や、家族が多い知り合いに毎年お米をプレゼントしているという経験があります。また、女性の娘さんがアメリカで結婚し文化の異なる国で暮らしているそうで、その影響からも苦労し大変な思いをしている人に優しくしてあげたいと考えるのではないのでしょうか。これらの経験から女性の言う「役割を果たせること」とは、人を助けたり支援するなどの行動ができること、そして苦労して頑張っていくことだと考えます。
- ・ もうおひとり、78歳の女性は「しょうがないなと自分の中でこらえられること」と答えました。この女性は兄弟姉妹が多く年が離れている兄や姉を見て大人だなあと考えた、と答えました。当時は戦時中で食事や学校など生活で制限があり我慢が必要な状況だったと考えられます。そんな状況で苦労しながらも、自分たちきょうだいを引っ張り気遣ってくれた兄や姉をみて「こらえられること」という我慢が大人の条件としたのだと考えられます。
(担当 伊集院)

自分のことを大人だと思うのはどんなときかについての考察

これらの回答から、大人であるとはどういうことかの判断要因について3つの役割に分けることができると考えました。

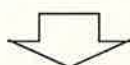
一つ目は「職業的な役割」で、働く際の責任です。二つ目は社会的な役割で、これは生きていく上での苦勞を知ったりそういう経験から他人に手助けができるといったことです。最後三つ目は家庭内の役割で、やさしさ・思いやりが求められる女性役割、そして社会的・経済的自立や充実が求められる男性役割が挙げられました。さらに戦時中に見た苦勞する状況で兄弟たちを引っ張る立場にあった兄・姉役割が挙げられました。以上から、それぞれの役割による苦勞や経験が、「大人であるとはどういうことか」の判断要因に影響している、と仮説として考えました。

(担当 菊池、牧野、伊集院)

39

「大人であるとはどういうことか」の判断要因

- **職業的な役割**(会社経営、教員)→職業上での様々な責任
- **社会的な役割**(苦勞を知る、人助け)
- **家庭内の役割**
 - ・ **性別役割**
 - 女性役割→優しさ、思いやりが求められる
 - 男性役割→社会的、経済的自立や充実が求められる
 - ・ **兄、姉役割**(戦時中、兄姉が苦勞・我慢していた姿)



それぞれの役割による責任・苦勞を経て得た「人間性」が「大人」に必要なものとされるのではないか

40

結婚と子育ての経験と大人になること

インタビュー回答22名中

「大人であるとかないとかは、働いている（経済的自立）、日常生活の自立、結婚している、子どもがいるなどに関係すると思いますか」の質問に対する回答16名中

結婚や子育てに関するキーワードを用いた人：11名

うち 経済的な面や自立には触れなかった人：6名

経済的な面や自立に関することにはしか触れなかった人：2名

結婚していれば、子育てしていれば大人と考えている人はほとんどいなかった が！

1つの基準として特に結婚や子育てをとらえる人が多い

41

結婚と子育ての経験と大人になること

私は【大人であるとかないとかは、働いている（経済的自立）、日常生活の自立、結婚している、子どもがいるなどに関係すると思いますか】という質問に対して、「結婚」という単語を用いて話をする人が多いことに注目しました。さらに、「結婚」という単語を用いた人の多くは同時に「子育て」という単語を用いていることにも注目しました。ここで、私が注目したのは、結婚していることが大人であることに関係しているかどうかではなく、大人になることの説明において結婚という単語を用いる人が多かったという点です。

【大人であるとかないとかは、働いている（経済的自立）、日常生活の自立、結婚している、子どもがいるなどに関係すると思いますか】という質問に対する回答者数は16名。回答に結婚や子育てに関する単語を用いた人11名。そのうち、経済面や自立に関しては触れなかった人6名。経済面や自立にしか触れなかった人2名でした。

（担当 高島）

42

結婚と子育ての経験と大人になること

しかし、結婚や子育てをしていれば大人であると考え人はほとんどいなかったため、1つの考えをもつための基準として結婚や子育てを考える人が多いのではといえます。ではなぜ結婚と同時に子育てという単語を用いる人が多いのでしょうか。若い人よりも高齢者のほうがこれらの単語を多く用いていました。

調べてみると、有配偶者つまり結婚している人の出産率の統計が得られました。これを見てみると、有配偶者の出産率は高い傾向にあり、今70代80代の方々が出産するころは有配偶者の出産率は現在より高いことがわかりました。さらにバブル期以降一時は出生率に下降傾向が見られますが、その後はまた出産率が上がっていることがわかります。つまり、結婚と子育ては対で考えられやすい社会だといえるのではないのでしょうか。また、他の質問に関する回答で「孫が」「子供が子育てしていて」などという回答からも結婚と対をなしている子育ては大人の概念に強い影響を及ぼしているのではと考えました。

(担当 高島)

結婚と子育て

結婚と同時に子育てというワードを用いる人多数。若い人より高齢者の方がどちらのワードも使う。(孫などの話なども用いて)

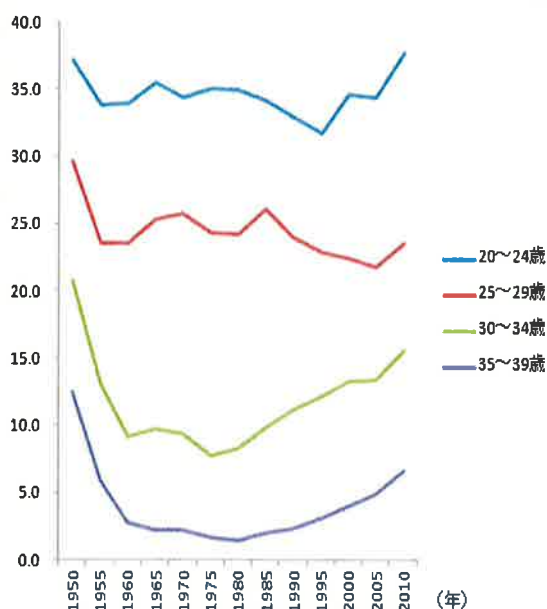


結婚と同時に子育てするということが当たり前だった？

- 回答者22名のうち16名が70～80代。20代のころの出産率は35%以上。
- 若い時期での出産がまだまだ当たり前だった。
- さらに、どの時代も比較的有配偶者の出生率は比較的高い

(担当 高島)

有配偶女性ベースの出生率(%)



*計算式=当該年齢の母親から生まれた子ども数/当該年齢の有配偶女性数
資料:総務省『国勢調査』、厚生省『人口動態統計』
作成者:真田敏彦(@tmaita77)

大人になりたいと思ったことはあるか？

1950年代から1960年代に青年期だった人の大人観とは

1950年代から1960年代（戦後復興と高度成長期）

就職率 中卒：40%以上 高卒：50%以上

問：大人になりたいと思ったことがあるか

80代女性「それがだからないのよ。夢中で仕事してきたからね。」

80代男性「ああ、そんなことないな。一生懸命働いたっけなあ。」

青年期に義務のように働いていたため、大人と子どもの区別が曖昧

→働いている中で気づかずに大人になった

（担当 島田）

45

80代女性「大人になれば働ける、働ければ今の親を助けられる」

→働くことは大人になることの条件

70代女性「就職しても何にもできない自分が見えたときだよ。幼
いからね、とても幼かったから。」

→仕事ができないのは子ども、仕事ができる大人を目標に

大人とは仕事ができる、尊敬される存在



働くことが大人になることに関係している

（担当 島田）

46

「大人になりたいと思ったことはありますか？」

私は、「大人になりたいと思ったことがありますか」という質問に対する回答を考察しました。

現在70代から80代の方が中学を卒業する15歳の時は、戦後復興や高度経済成長がされた1950年代から1960年代です。この時代の中学卒業後の就職率が40%以上で、高校卒業後であると50%以上と今に比べると高いです。そのため、「大人になりたいと思ったことはあるか」という問いに対して、「夢中で仕事をしてきた」「一生懸命働いていた」というように働いていたことで気づかずに大人になったと答える人が多くいました。これは、青年期に義務のように働いていたため、子どもと大人の区別が曖昧であったからだと考えます。

また、大人になりたいと答えた人であっても働くことと結び付けてお話されていました。80代女性は「大人になれば働ける、働ければ今の親を助けられる」と答えました。ここでは、働くことが大人になる条件として話されています。70代女性は「就職しても何もできない自分ができなかったときだね。幼いからね、とても幼かったから。」と答えました。ここでも、大人は仕事ができる人であり尊敬される存在として話されています。だから、仕事ができない人は子どもと認識されています。

「大人になりたいと思ったことはありますか」という問いに対して、ありなしにかかわらず働くことが話に出てきていたことから、1950年代から1960年代の大人観には働くことが関係している、という仮説を立てました。

(担当 島田)

47

働く経験は「大人になること」につながるか

●自分や他人のことを大人だと思うのは？

- ・50代女性 「サラリーのちょっときもちもらった時。」
- ・10代男性（学生）「就職するかしないか、そこ、仕事は大きいと思いますね。社会人になるか、学生でいるか。」
- ・70代男性「就職して、自分で食ってかなくちゃなんないと、、、自立するっていうこと。」



✓「働く」という経験が「大人になること」の契機となる

このような経験が重要である

(担当 狩野) 48

働く経験は「大人になること」につながるか

私は働くという経験に着目して、働くという経験は「大人になること」に繋がるのではないか、という仮説を立てました。自分や他人の事を大人だと思うのはどんなときですか？という質問に対して、「サラリーをもらったとき」「ボーナスをもらったとき」「就職するかしないか、仕事は大きいと思う、社会人になるか、学生でいるかで大きく違う」「就職して、自分でくっついていく＝自立する」というような回答が返ってきました。このような回答から、働くという経験が、「大人になること」のきっかけとなっていると言えると思います。

前の報告にもあったように、働くことが大人になることに関係しているということになります。このように契機となる経験が「大人になること」において重要であると言えると考えました。（担当 狩野）

49

大人ではないと思うのはどんなときか

- ・「孫と衝突して感情が出てしまうとき。」
- ・「怒る人は小さく見える。」
- ・「孫と一緒に怒ったり、孫と一緒に喧嘩したり。」
- ・「人にイラつくのは大人じゃない。」
- ・「（大人じゃないのは）腹立てるとき。」
- ・→**怒りの感情をコントロールできずにそのまま表現する人は子ども**

怒りの感情表出が
大人じゃないこと
の基準？

◇大人だと感じるのはどんなときか

- ・「（大人とは）寛容になる事。やっぱり他人に対してね、優しくなるとか。」
 - ・「優しい人は大人だなんて思う。すぐ怒らないとか。」
 - ・「（喧嘩しているとき）一呼吸置いて考える時間を持てるのが大人かなあ。」
- 大人は感情をコントロールして表に出さない**

50

「大人ではない」と思うとき

私は「大人ではない・子どもと感ずるとき」を尋ねた回答に注目しました。「大人ではないと思うのはどんな時ですか」との質問に対し、怒りの感情が語られることが目立ちました。例えば「孫と衝突して感情が出てしまう」「怒る人は小さく見える」「孫と一緒に怒ったり、孫と一緒に喧嘩したり」「人にイラつくのは大人じゃない」「（大人じゃないのは）腹立てるとき」という回答が出されました。

これらの意見から、【怒りをコントロールできずにそのまま表現する人は子どもだ】と考えられていることが読み取れます。（担当 江崎）

51

「大人ではない」と思うとき

比較のために「大人だと感ずるとき」の回答から「感情」に関わる回答をピックアップしました。上の「大人でないと感ずるとき」ほど感情に関する回答は目立ちませんでしたが「（大人とは）寛容になる事。やっぱり他人に対してね、優しくなるとか。「優しい人は大人だなんて思う。すぐ怒らないとか。」「（喧嘩しているとき）一呼吸置いて考える時間を持てるのが大人かなあ。」

ここから、【大人は怒りを表に出さない】【大人は優しい】という考え方を読み取ることができます。

以上のことから、怒りという感情のコントロールができるようになることは、大人になるために重要なことだと言えます。（担当 江崎）

52

若者にとって「大人になること」とは？

小諸市でのインタビュー(10～20代)

事実として

学校・結婚・就職・飲酒合法年齢
成人・一人暮らし・インターン



精神面

親から自立・器の大きさ・気遣い
責任感・優しさ・上昇志向



対象者3人の回答

自分のことを大人だと思うか→自分はまだ**大人ではない**
大人になりたいと思うか→まだ**子供のまま**でいたい

何故？



アダルト
チルドレン
キダルト
パラサイト
中年
ピーターパン
症候群

現代社会での大人の定義とは？ 大人＝良いこと？

社会の変化(結婚・働き方など) ... 曖昧になっている
「大人になること」に対する**プラス**イメージと**マイナス**イメージ

精神面→大人になりたい、ならなくては！！**But** しなくてはならないこ
と、面倒なことが増える

53

若者にとって「大人になること」とは？

私は、若者にとって「大人になること」はどういうことかについて15歳、19歳、20歳の3人のデータから考察しました。そこから事実としての大人と精神面での大人に分けられると考えました。

事実としての大人とは「学校・結婚、飲酒できる、成人、一人暮らし、インターン」などが挙げられました。

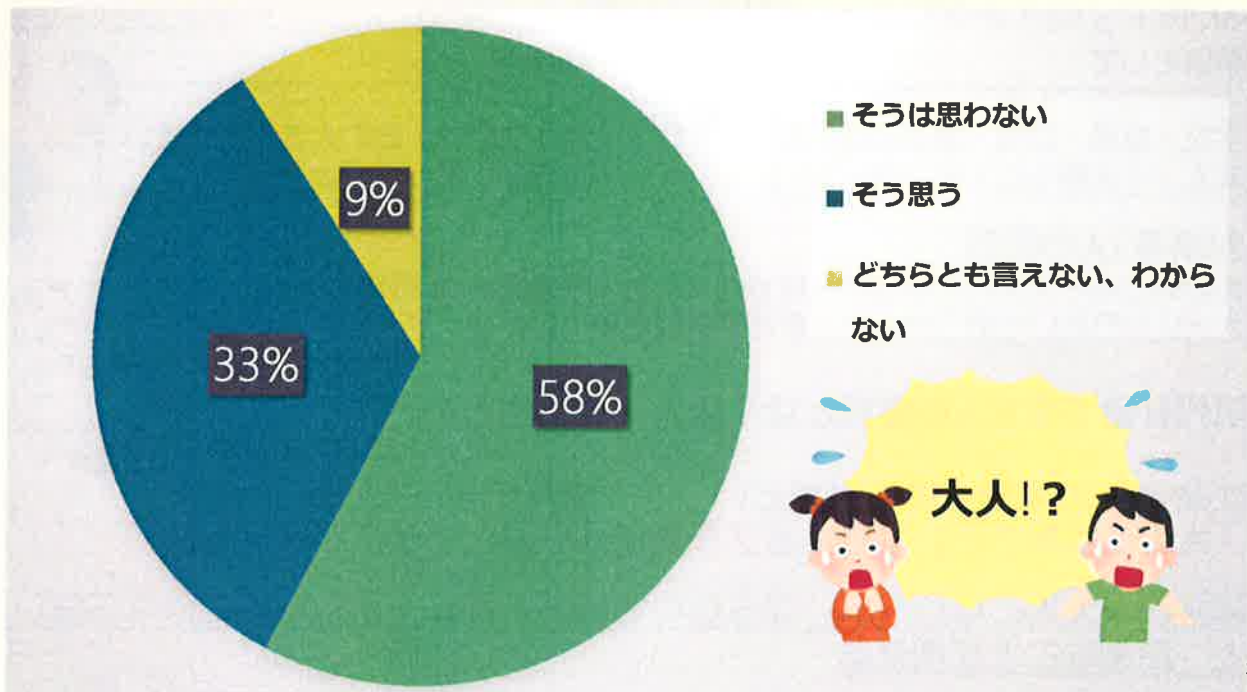
精神面での大人とは「親からの自立・器の大きさ・気遣い・責任感・優しさ・上昇志向」などが挙げられました。

これを踏まえて、「自分のことを大人だと思うか」という問いに対しては、3人全員が、「自分はまだ大人ではない」と答えました。次に、「大人になりたいか」という質問に対しては「まだ子供のままでいたい」と全員が答えました。ここで、何故、学校だとか、成人だとか、一人暮らしだとか自分が思う大人になる前提をクリアしているのにも関わらず、自分を大人ではないと答えるのか、また、何故「子どものままでいたいのか」という疑問が生まれます。

(担当 串田)

54

早く大人になりたいか(10代)



55

若者にとって「大人になること」とは？

そこで「そもそも若者にとって大人って良いことなのか」について考えました。

文部科学省が2003年に行った、10代に対する「早く大人になりたいか」の調査を参考にします。

このスライドに示されているように、「そうは思わない」と答えた人が全体の58%、そう思うと答えた人が33%で、そうは思わない人の方が多いということが分かります。

今まで大人になることをプラスのイメージとして捉えていましたが、若者にとって大人とは必ずしも良いものではないのです。

何故若者が大人になりたくないと答えるかには、まず、社会の変化が考えられます。現代では結婚は当たり前のものではありませんし、30代、40代以降にするとという方も多くいらっしゃいます。また働き方に関しても、10代半ばから働かなくてはならないわけではありません。非正規雇用が増え、ユーチューバーという職業が生まれたり、多種多様な働き方が存在します。

そういった社会の変化が、大人になることに対するマイナスイメージにつながると考えます。大人になると、「働かなくてはならない、税金を払わなくてはならない、もう親に頼ってられない」など、自分でやらなくてはならないことが増え、多くの若者がそれらを面倒なことだと考えています。「大人になると、面倒なことが増えるからなりたくない」という気持ちは、正直自身も十分に理解できますし、皆さんの中にも理解できる方は多いのではないかと思います。このようなことから、「面倒だ」という感情が大人に対してマイナスイメージを抱かせる原因になっていると考えられます。

まとめると、若者は、器の大きさや気遣い、優しさなどの精神面では、大人になりたいと思っはいるものの、しなくてはならないことが増える「大人」という存在に対しては、マイナスイメージを抱いており、今まで前提にしてきた大人＝良いことには反するということが分かりました。

(担当 串田)

語り方、観点の男女間の違い??

小諸市でのインタビュー対象者
10～80代の男性と女性

語り方、観点が
全然違う



男性→「自己」、自分中心?
女性→他人への気配り
丁寧語?



満足? 自立? 模範?
丁寧語? 気配り?



性別による違いか?

ジェンダーによる違いは、社会階層、地位、役割、経験などによって違う。
それぞれの属性によって、形成された違いの可能性がある。

57

語り方、観点の男女間の違いの考察

今回インタビューのデータを検討するなかで、私は男女間の語り口の違いに気づきました。

そこでキーワードを設けて検討していくことにしました。キーワードは満足、自立、模範を挙げ、そして語り口として丁寧語であったり気配りの面について注目することにしました。

自分の事を大人だと思うときはどんな時かという質問への回答を、男性と女性で分け、違いを見つけることにしました。

結果として、男性は自立、満足、について述べることが多い傾向にあり、また学生インタービューアーに対して自分が目上であるという意識で回答をされている人もいました。インタビューの中で、自分の知識、主張について強く勢いのある語り方をしている方もいました。一方で年齢が若いインタビューイーは、男性であっても私たちが年上だからなのか丁寧な口調で語られました。

女性は模範、気配りという点から述べる傾向であり、またインタビューアーに気を配りながらの回答が多い傾向がありました。一方で先ほどの男性のところであった自分の主張がとて強く勢いのある語り方というのは一部の女性にも見受けられることもできました。

結論として、ここでの語り方や観点はたんなる性別による違いではなくジェンダーによる違いは、社会階層、地位、役割、経験などによって違いそれぞれの属性によって、形成された違いの可能性があると考えられました。(担当 江座)

58

謝辞

- この調査の実施にあたって多大なるご協力とご支援をいただいた小諸市総務部企画課市民協働推進係の皆様には深く感謝しています。この場でお礼を申し上げます。
- インタビューにご協力いただいた長野県小諸市の方々、団体・グループのみなさまに深くお礼を申し上げます。
- ゼミ合宿の滞在先「青雲館」のみなさんありがとうございました。

59

まとめ

（調査結果の考察から仮説生成へ）

- － 大人と子どもの境界はあるか、何が境界だと思うか
- － 大人とはどんな人か
- － 「結婚していること」と「大人であること」は関係ある？
- － 「自分のことを大人だと思うのはどんな時ですか」の回答の比較
- － 結婚と子育ての経験と大人になること
- － 働く経験は「大人になること」に繋がる？
- － 大人ではないと思うのはどんなときか
- － 大人になりたいか
- － インタビューでの語り口

60